

マザーハウス

たより

2022

12月号

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



～受刑者の皆さんへ～

♪お問合せが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。

♪移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。

表紙…光りんさん
「さあ、バアちゃんちに行くよ！
車に全部のるかな？」

- 2 理事長挨拶
- 3 行事予定
- 4 社会の声
- 8 育児日記
- 8 ささきみつおコーナー
- 9 塀の中のたより
- 18 つぶやき！
- 19 ラブリーDAY
- 19 健康相談窓口
- 21 プリズムアート倶楽部
- 22 回復プログラム 実践
- 23 お知らせ

光りん

理事長挨拶

共に食事をさせて頂き、家族の声を聴かせて頂きました。様々な状況において加害者家族として困難な道を歩まれたことと思いますが、とても温かい家族であり、裁判では明らかにならない深い部分を関係者から伺い、多くのことを知り、学ばせて頂きました。

私の頭には「どうして」という疑問が浮かびました。この事件は死刑でいいのかと、被害者感情を考えれば当然であると思いますが、死刑にして何が変わるのだろうか、そこには空が残るだけではないかと思うのです。

私はどんな人間でも変わることが出来る、大切なのは生きて贖罪の道を歩むことではないかと思うのです。自分が行った行為と向き合い、自分の十字架を背負い、生涯歩み続ける、そこに終わりはないが、被害関係者と加害関係者が話し合う場ができと思うのです。直接の関係者ではなく、間接的な関係者で様々なことを話せると思います。

23日には、実弟を殺害された被害者遺族である原田正治さんも加わって

下さり、荒牧浩二さん、風間、私の4人でシンポジウムを行いました。深い内容の話でしたが、あつという間に2時間が経過し、終了後、ともに食事をしながら会談をしました。

24日は、私も初体験である死刑囚の被害者遺族と対面し、4人で話をしました。被害者遺族は死刑囚とも面会をされた方であり、話せば話すほど、死刑囚ともっと対話がしたかったようでした。そして死刑囚も社会の人との交流によって、深く自分と向き合うことが出来るのであり、様々なことを考えることが出来ると思うのです。彼らを孤独にして、何の意味があるのでしょうか。

遺族の方が、「何で」と死刑囚に問いたい、と言っていました。この声はとても大切ではないでしょうか。だからこそ中立的な人を通して対話することが重要であると思います。そして被害関係者が矯正施設において面会を求めたら、実施させるべきであると思います。それが、加害者が罪と向き合うために重要なことの一つでもあると思うのです。

皆さん、今年もあわずかですね。私自身、あつという間の一年でした。自分の中にできていないことが多々あり、振り返りながら来年の準備をしたいと思います。来年はきちんと実践できるようにして行きたいです。

特に子どもたちとの時間を大切にできるようにしたいです。悔い改めも含めて、「パパ大好き」と言われて行きたいです。

先月の後半に、NPO法人マザーハウスの理事である風間と私で大分と宮崎に行つて来ました。22日に大分に入り、Inter7において共同代表の荒牧浩二さんとお会いし、一緒に死刑囚の家族と面談をさせて頂きました。

被害、加害の問題はとても難しいものでありますが、Inter7で実践して行きたいです。

先日、新宿にある更生保護法人更新会にお招きを頂きまして、寮生の皆さんにお話をさせて頂きました。「皆さんは、自分は大丈夫である（再犯はしない）と思っていますが、それが一番危ないです」とお伝えしました。謙遜になって自分をよく見つめることがとても大切であると伝えました。

神様ではないのだから、絶対ということはない、ということをよく分かって欲しいと思います。

その後、あるテレビドラマの関係者が話を聴きに来ました。その中で感じたのは、仮釈放と満期釈放について多くの方が分かっていないということでした。両方ともに保護司がつくと思っ

また、社会復帰した女性に聴いたのですが、警察署の留置場では下着（ブラジャー）を使用することが出来ないことも、社会の人は知らないのです。これは明らかな人権侵害であると感じます。犯罪をしたのだから、と済ませるのではなく、同じ人間であるということを知って欲しいと思います。そこから愛が始まるのではないのでしょうか。

先日、高校生4名がマザーハウスの事務所に来て下さり、お話をしました。また、大学生3名とZOOMで面談をしました。とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

また、東京保護観察所の首席観察官とも面談の機会を頂きました。新たな道が生まれることを願っています。

12月21日から24日まで、マザーハウスのメンバー10名と京都に行きます。龍谷大学で講演をし、立命館大学でゼミ生との交流会をしてきます。また、死刑に関するイベント、無期囚の生と死に関するイベントを実施します。

私たちと触れ合い、対話をして頂くことに、ただただ感謝でいっぱいです。そのことを通して共に生きることが学び、闇から光の道を歩んで行きたいです。

マザーハウスを応援して下さい。皆様、本当に有難うございます。

今年も大変お世話になりました。来年もどうぞ、宜しくお願い致します。皆様、良いクリスマスと新年をお迎え下さい。

行事予定

▼12月

・21～24日 京都修学旅行

社会の声

文通ボランティアからの

メッセージ

■文通ボランティアの方から頂いたお手紙をご紹介します。

☆

私は文通ボランティアをさせて頂いている者ですが、現在文通中の方の出所が来年に近づいているのを機に、もうお一人、文通相手を希望したいと考えています。

相手の分からない方との文通は、とても難しいことかと思っていました

が、相手を想像し、想い、考え、文章に表すことの大変さと共に、お互いの心が開かれ、理解し合え、思いやれるようになった時は、本当に嬉しく感じました。

私は平凡な人間なので、難しいことは書けませんが、少しでも人の思いを聴く相手となり、一緒に歩めていけたらいいなあと思っていますので、宜しくお願い致します。

☆

はじめまして。ラブレター・プロジェクト（MLP）に興味があり、連絡させて頂いたできました。理念を読み、私も力になりたいと思いました。

（多様な考えを持つ）人との関わりは、大切にしたいと思っています。

こちらでの文通を通して、私自身もお相手から新たな気づきや勉強になる事があると思います。

意図せず事件や事故に加担して、加害者になった方々に対しては、絶対に腐ってほしくない。自分自身を大切にしてほしい。いつかまた人を信じてほしい。と思いました。

（親、家族、恋人、友人等からの）愛の不足で罪を犯した方もいるだろう：正しい愛を知ってほしい。大切にされていると感じてほしい。と思いました。

受刑者の方々は自省し、罪を償い、更生し、社会復帰を目指されています。ですが、逮捕された時点で孤独になる方は多くいらっしゃるのが現状だと、改めて分かりました。ご本人達も自覚され、想像した時に強い不安を抱かれると思います。

そんな日常に私の手紙も「心の励み」や「小さな楽しみ」、「いつかの希望」になれたら幸いです。

あなたは社会復帰して、人の役に立つべきです。感謝を忘れず、生きるべきです。そして、ありがとうと言われるべきです。自分らしくいられる居場所

所(偽る必要がなく安心できる居場所)を見つけるべきです。伝えないですが、このような思いを持ちつつ文通したいと思っています。

多くの方が経験しない事(元受刑者や刑務所生活など)を経験した事から、得た何かを自身的人生に生かして頂きたいと願っています。

長文で読みづらい点もあったかと思いますが、拝読頂きありがとうございます。



一兵さん

社会の声

学生の感想

■7月に国士館大学で講演させて頂いた際に学生の皆さんから寄せられた感想をご紹介します。

☆

刑務所を出所されてさぞ大変だったと思いますが今はNPOマザーハウスの理事長職に就任されていて人はやり直しがきくということを改めて思いました。

これから頑張ってください。自分も何か協力できることを探してみます。

☆

自身の体験を通してのお話、また、実際に関わった当事者の方のお話を聞けて、犯罪者処遇の意義について、改めて考える機会を得ることができました。

☆

犯罪Ⅱいけないことであり、本人に責任があり、自分が悪いのだからその後は自分でなんとかしなくてはいけないというような風潮が世の中にまかり通っているのではないかと私は考える。

そうではなく、本人にも責任があることはもちろんだが、それ以前に社会的要因や環境要因もあると、私は考える。

る。そのため、犯罪者を罪を犯した時点で見捨てるのではなく、罪を犯した後にも手広く保護、援助をしなくてはならないのである。

☆

最後におっしゃっていた、犯罪者は一人、孤独であることが多い、という共通点を解決していくことが再犯防止につながっていくのではないかと思っただ。社会復帰は一人で行うことは難しい。

手紙を書くなどの活動を行っているのは、犯罪者処遇の勉強をしないと知る機会が少ないと思う。実際私も去年のほかの授業で紹介されるまで知らなかった。誰でも参加できるので広めていくことが再犯が少ない世の中にするには必要だと感じた。

☆

とても心に響きました。

☆

身寄りのない出所者の受け皿としての宿泊・生活支援事業、当事者コミュニケーションによる就労支援事業は、社会貢献に繋がる事だと思いました。当事者の体験にもとづく社会復帰支援を行うことにより労働力を確保し、再犯罪の防止につながる。

自身、日本に行きたいベトナム人サポーター事業を行うので、受刑者・出所者を取り巻く社会課題（住む場所、携帯契約など）が同じだと思い参考になりました。

☆

今回の講演を聞いて、受刑者や出所者を取り巻く社会課題について知ることができました。今日の再犯率が何故上がっているのか、何故また再び犯

罪を起こそうとするのか、それには出所後の支援が微々たるものである事、社会復帰に支援が必要となることの周囲の理解の不足、差別や偏見などといった隠された原因があることが分かりました。それに対して行政や社会は真剣に考えていないのが現状である事も分かりました。

私は、日本の再犯を防止する為には、こうした社会復帰の支援を充実させること、そして何より自分達周囲の人間が理解してあげることが何よりも重要だと思いました。犯罪を犯す者のほとんどは何かしら辛い過去があったり、心に傷を負っています。こうした人達の周囲への理解を深めるためにも、今の受刑者や出所者の社会復帰の現状・課題を広く社会に発信し、一人でも多くの人に知ってもらう事が大切だと思います。

自分を含め、周囲の人達は、この人達の過去のことばかり見るのではなく、頑張って進もうとしている未来に着目し、それを支えてあげる事が、日本の再犯防止に繋がり、何より一人の人間を守ることに繋がるのだと実感しました。

今はまだまだ周囲に理解してもらえない事も多いと思いますが、五十嵐さんの活動は、確実に多くの人の支えになっていっていると思います。自分も少しでも多くの人にこの現状を伝えようと思います。これからも頑張ってください。応援しています。

☆

本日の講義で五十嵐さんのような方の話を聞くことは初めてで、実際犯罪を犯した人の出所後の生活や周りの人の目などをわかりやすく説明していただきましたが、私自身も犯罪を犯した人に対してこれまで差別的な考えでしたが、更生され、誰かの力になるという働きは素晴らしいと思いました。また、「悔い改める」という言葉を聞き誰でも更生できるし社会復帰なども諦めないでほしいと思いました。出所後は家を借りられないことや携帯の契約も難しいと知り、罪を償ってからも大変なのだわかりました。

私も将来誰かの役に立つことを目標としているため、このような話を聞くことができてとても良かったです。

☆

お話を伺い、犯罪者に対する見方・考え方が大きく変わりました。

特に犯罪者について犯罪の行為で人を判断しているという点については確かに友達や恋人に対しては中身をしっかりとみるのにもかかわらず、犯罪者だけはなぜか犯した犯罪の行為だけでその人を判断していたと改めて実感しました。

私は刑法や刑事訴訟法、犯罪者処遇法などを通して犯罪、犯罪者に対して学んできましたが、お話を聞いて、犯罪者というレッテルを一度貼られたら剥がすことができない、刑期を終えて社会復帰を望んでいるのにその社会が受け入れることを拒んでいる、というような現実的な話をはじめていき再犯を促しているのも私たちではないのかと感じました。

私の祖父が建築関係の社長を務めているのですが、積極的に刑務所に募集をしています。

私の母も同じ職場で働いているのですが、やはり悪質な犯罪を犯した人を受け入れるのは厳しいと話していました。ですが、なかには本当に罪を犯したのかというレベルで良い方もいるという話をよく聞きます。

犯罪者というレッテルを剥がすことはできないとは思いますが、刑務所に入って罪を償っているのだからもっと社会が受け入れる体制をつくるべきだと私は思いました。

今回の講義をきいて私は人と正面から向き合うことができる、そんな人間になりたいと思いました。また、今後の活動についても注目させていただきたいと思いました。今後ボランティアも是非参加させていただきたいと考えています。

ーつづくー

五十嵐亜利沙（妻）による

育児日記

長男A君の小学校の個人面談で、「A君は自己主張がなく大人しいので、せめて大きな声で挨拶ができるように朝練習している」との話がありました。

「自宅では声出ていますか？」と聞かれたので「叫んでいます」と答えました。

長女Kちゃんは最近、通園の時「幼稚園まで走る！」と言って、私達が自転車に乗っているその横を全力疾走しています。

年中の時は「抱っこしないと歩けない」と言っていたのに、成長を感じます。



休日、自宅に次女のRちゃん、三女のMちゃん、夫がいて、夫が昼寝をしている時に、Mちゃんが玄関から外に出て行ってしまい、すぐにRちゃんが気付いて部屋に入れてくれたとのことでした。

以前はRちゃんがどこかに行ってしまったのに、今度は助ける側に成長しました。

三女のMちゃんは、美容院で前髪を作ってもらいました。髪が長いので結わくのが楽しいです。

ささきみつお コーナー

「即謝」そして「即赦」

二つの目標を掲げてみました。

一つは、「即謝」、すなわち「すぐに感謝しよう！」。

もう一つは、「即赦」、すなわち「すぐに赦そう！」。

振り返ってみると、すべてのことに感謝しているつもりでしたが、あまりにも感謝が不十分であることに気が付きました。

どんな人も赦しているつもりですが、あまりにも赦しが不十分であることに気が付きました。

その結果、不平不満がくすぶって、神との親しい交わりを妨げていました。

心の中で批判し裁く思いが、人から自分を孤立させていました。

ある日、「10分おきに感謝する」ことを実行している人の証しを聞きました。

私も「10分おきに感謝する」ことを目指して、思いつくたびに感謝してみました。

感謝できないような出来事については、無理にでも感謝してみました。

不思議なことに、感謝していると、すべてのことを受け入れることができました。

主がそれらを益にして下さっているという確信が湧いてきて、嫌なことが喜びに変わりました。

表面では赦していても内面ではわだかまりがあつた人たちを、心から赦すようにしました。

すると、その人たちに対する愛と親しみが回復してきました。

これら全ては、愛と恵みの主がなさっていることです。

だから、すぐに感謝しよう！そして、すぐに赦そう！

受刑者からのお手紙紹介

塀の中のたより

積み重ねてきたもの

M刑 Oさん

私が収容されているのはM刑で、とても教育に熱心な施設のはずなのですが、受刑者の中には「次の刑務所はどこがいい」とか「悪さはやめられませんか」という者がかなりの数いて、同じ過ちを繰り返さぬよう日々考え、悩んでいる私にとって、とても厳しい環境です。

様々な精神疾患を抱えていて、ただでさえ心が弱い上、そういった悲しい発言や悪口、ため息などの負の感情に影響を受けてしまいます。

現在、無事故も3年近く、5度目の職業訓練、と、周囲の支援のおかげですが、「ここまで努力を重ねてきました。しかし先日、恐らくそれが原因で体調不良となり処遇本部で休憩することになったのですが、100メートルほどあった距離を歩いてきた記憶やその際のやり取りの記憶がない、ということが起き、以前同じように記憶がないという事態になった前後に、暴れたり倒れたりしていたということがあったため、再び同じことが起こるのではないかと怖くなってしまう、頭が働かなくなりました。

その結果、その翌日、工場に出役したい思いは強くあったにもかかわらず、足が動かず、また強い眩暈(めまい)に襲われてしゃがみ込んでしまい、「出たくても出られない」「待って下さい」と伝えましたが扉を閉められ、作業拒否として調査になってしまいました。

仮釈放も見えてきて、今日まで積み重ねてきて、ようやく評価されるようになってきた最中に、心の問題で、話を聞いてもらえる機会もなく調査、では、やるせないです。現在も懲罰中で、どうなるか分かりませんが、せっかくの職業訓練から、たった一度の心の不調で除外するなんて、悔しくてたまりません。

ただ、事実として出役できていないので、そこは申し訳なく思っており、それだけに余計、訳が分からなくなっています。今後の審査会でどのような結果になるか分かりませんが、出された結果に従わなくてはならないのが懲役の定め。良い結果となることを祈って、その日を待とうと思います。

無事故を積み上げてきたのに、こうして調査になってしまい申し訳ないで

すし、本当に悔しいですが、残刑期がこれから先、10年、20年とあったり、無期刑で務めている他の方々と比較したら、私の残刑なんて吹けば飛んでいってしまうようなもので、いつまでもウジウジせず、前を向いていきます。顔も名前も存じ上げませんが、同じ各地の刑務所で自分自身と戦っている方々がいる、と思うだけでとても心強いです。こういう結果になろうと頑張ります。

(追伸)

あれから処遇審査会が行われ、閉居7日の懲罰を受けていました。心の不調が正当な理由と認められなかったことは、とても悔しくて悲しいですし、支えて下さっている皆様に対して、本当に申し訳ないです。無事故と2種2類が剥奪され、職業訓練生をクビとなり、本当にやるせないです。

しかし、3類に指定して頂けて、調査前に受験した簿記2級に合格できましたし、以前も在籍していて、当所の生産工場では最も待遇がいい(と思っている)木工場に配役させて頂いて、知った顔が大半、と良い面もあるので、

そちらを見て前向きに、周囲の協力を頂きながら日々頑張ります。

施設では、感情を持つと損

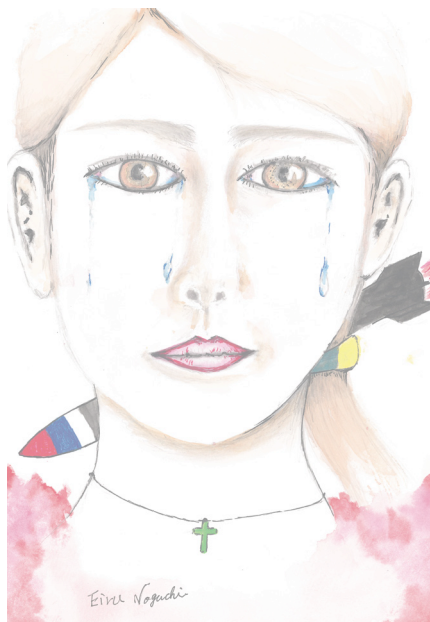
M刑 Yさん

私は、マザーハウスと出会い、変わったところが一つございます。それは、感謝の心を忘れない、ということです。懲役生活が長いと、どうしても施設の都合の良い生活をしてしまいがちとなり、できることもできないのが当たり前、という生活なので、感情を持つと損であると思うようになっていきました。

その一番の理由は、施設では、何かをしてもらった時にお礼を言うことが不正となりますし、また、人のことを勝手にするものではない、と日々言われていることもあり、何が正しいことなのか、見失っていた時期もありました。

ですが、マザーハウスの皆さんと出会い、相手方のことを心より思う大切な気持ちを忘れていた自分に気づけて、自分を変えようと思え、今に至ります。お手紙にもありましたが、自分と向き合う機会をつくって、糧となるものを得たいです。

私が今現在受講している教育にて、「犯罪とは何?」「更生とは...?」という話題がよく上がるのですが、刑事施設は全くそのことを考えていません。刑事施設は、自分たちの都合の良いようにしかないからです。



エイル・Nさん

久しぶりの運動会

アフロ犬さん

社会では行動制限が撤廃され、ウィーコロナの生活が始まっています。

ところが、刑務所ではそう簡単に事が進みません。確かにワクチンの普及によって重症化のリスクは減っていますが、しかし、特殊な閉鎖空間で集団生活を送っている私たちは、ただでさえ感染症に弱い一面があるため、なかなか普段の生活が取り戻せません。

社会で第7波が来れば、職員がウイルスを運んできて、ちようどお盆から完全ロックダウンが始まりました。クラスターの規模は100人越えまで拡大し、9月に運動会が予定されていたものの、2年連続の中止も覚悟せざるを得ない状況でした。

ところが担当からの話で、所長の強い意向があつて延期の方向に進んでいると聞き、俄然燃えてきました。私は基本的に1年を通して体力づくりをし

ていますが、それは運動会に向けてという側面もあります。私が運動会にかける想いは相当なもので、正月の特別食があるか無いかくらいの意味を持っているのです! (笑)

そしてその後、2度の延期を経て、10月に開催まで漕ぎ着けました。しかも3年ぶりとなる、声出し応援可能な完全開催でした。

我が工場は20人程度と人員が少なく、中には年配者や運動不能者もいます。50人以上の大規模工場も複数ある中、厳しい戦いになると予想はしていましたが、私には絶対の自信がありました。と言ったって、私にそこまで能力がある訳ではありませんし、工場内には抜けた人間が揃っていた訳でもありません。ただ私たち、他どの工場より努力したと自負しています。そして、どの工場より団結したと自負しています。

今年に入った頃から、特性によってメンバーを振り分けて、それぞれの特性を伸ばすトレーニングを重ねました。皆が賛同し、自主的に参加し、切

磋琢磨しながら本番当日まで続けることができました。応援練習も競技の練習も、全員参加で可能な限りを尽くしました。あとは当日、天命を待つのみでした。

そして迎えた当日は、前日までの雨が嘘のように晴れ渡りました。開始第一声から気合いで先手を取り、第一競技での世紀の誤審も何のその！そこからは圧倒的強さで大逆転優勝を遂げることができました。

大先輩から若手まで、幅広い世代が揃う中で、先輩からは「大和魂」を教えられ、若手とは「ヤッターレイ！」と心一つにして取り組みました。世代年代の垣根を超えた仲間とともに、最後まで戦い、優勝できたことは私の誇りです。そしてそれは強固な絆が生まれた瞬間でもありました。

私は今回の受刑生活で、いくつかの確かな絆ができたと確信しています。そしてこの先は、その絆を信じて、その絆とともに再起できるよう、やるだけですよ！私は皆の運動会の勇姿を忘れません。

窃盗に入った家で

A 刑 S さん

今回、私は窃盗で逮捕されたのですが、私が盗みに入ったところのご夫婦がクリスチャンでした。

起訴後、謝罪の手紙を出したところ、返信が届きました。そして書信と一緒に、「イースターおめでとう」のメッセージカードとともに、サブレの詰め合わせが拘置所に届きました。私は驚き、困惑してしまいました。

書信の内容も、批判する言葉は一言もなく、逆に私を励ましてくれ、「イエス様を信じているかいなか、施設に収容されているかいなか、これだけの違いです」と書かれていました。

私がこの被害者方ご夫婦のところに侵入した時、『百万人の福音』が目に残り、私も前にマザーハウスよりその書籍を差し入れてもらっていました。そのことを手紙に書くと、ご夫婦

は、私のためイエス様に祈って下さいました。聖書を読んだこともない私には、意味が分からず戸惑うばかりで、どうしてこういう風な気持ちになれるのか、福音とは、信仰とは、キリスト教とは一体どのようなものなのか、と思いました。

以前マザーハウスにお世話になった時にこのような気持ちになれたらと思いました。が、上辺だけ取り繕っていた私には、そんな気持ちはありませんでした（申し訳ありません）。

イエス様とはどういう人なのか、読んでみたい、と思っていたところに、ご夫婦の亡くなられた息子さんの形見の聖書等が届きました。

早速読んでみたところ、つまずかず読み進めることができ、自分でも知らないうちに涙が流れ出て、不思議な感覚でした。たくさんのおみことばに感謝し、自分を持て余しました。よく、人の話で、聖書を読み涙が溢れて仕方がないなどと聞きますが、こういうことなのかと思いました。自分の愚かさには気付かされ、そして深く悔い改めるのです。このような気持ちはもちろん

初めての経験で、それから毎日聖書を通読し、難解な箇所等は、ご夫婦に聞いております。

1年半経った今でも、毎月、リビングライフ、オリーブライフ等の教材を送って下さいます。本当に頭の下がる思いです。このご夫婦の信仰深さには本当に救われました。

その後私は受洗し、今はプロテストントの信徒となり、日々みことば、みこころを学んでおります。今までに新約10回、旧約5回、通読しました。今も毎日1〜2時間は通読しています。そのように私にとって今回の受刑生活は、本当の意味で転換点となっています。

牧師先生にも話をしたところ、ぜひマザーハウスに手紙を書きなさいと勧められましたので、恥を忍んで今回ペンを取りました。どうかこのような私ですが、また入会できればと思いますので、お願い致します。

僕が文通を希望する理由

〇刑 Iさん

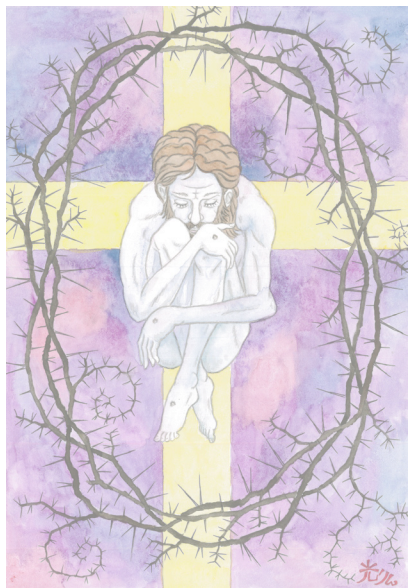
この度、「カトリック善き牧者の会」様より紹介して頂きました。マザーハウスでは、文通支援を行なっていると伺っております。活動内容が理解できる機関誌などがあれば、送付して頂きたいです。

以前、そちらと関係していた同囚に、「マザーハウスという団体に手紙を出す」と思っていますが、この団体どうですか」と尋ねたところ、同囚は「その団体は偽善だからやめておいた方が良い」などと言っていました。しかし、偽善かどうかは自分で確かめようと思いい、お手紙をしています。

僕が文通を希望する理由は、グエン・ヴァン・トウアン枢機卿の著書である『希望の光』に訳されている次の言葉に従うためです。「自分自身をあまり信用しないように努力しながら、経験豊かな人を探し出して、物事を論じ合

いなさい。神さまの手が、多くの人といろいろな状況を通して物事を取り決めてくださるのです」。

たとえ受刑者であっても未来のために生きるべきですし、そうでなければ、ここでの生活は無意味になるからです。どんな人間であつても、未来に希望を持って生きるべきですし、これを奪う権利は誰にも認められません。しかし、僕はそれを人から奪った（殺人ではありませんが）人間であり、この事実を振り返るとき、だからこそ人間の尊厳の重みを刑務所の独房で、この残酷な処遇で身と心に沁みて感じるのがあります。この経験が未来に生きることを望みます。



光りんさん「受難」

『二つの勲章』を読んで

N 刑 K さん

先日は、ドン・ボスコ社さんからの書籍を送付して下さい、有難うございました。お礼と感想を伝えたく、手紙を書かせてもらいました。

今回、最も心に残ったのが、『二つの勲章』という本の主人公ダミアン神父の人生でした。

今よりもずっと交通手段が不便で、すぐに行き来のできない時代に、遠く離れたハワイまで、ヨーロッパから航海に出ることは本当に命懸けだったと分かります。さらに、ハンセン病が蔓延している中へ向かうのは、どんな心情だったか考えるだけで、頭が下がります。

現代でもその外見のために差別が根付いている病気ですから、原因の分からなかった当時はもっと偏見が強かったにもかかわらず、一人の人間として

見ていたことの意識が、色々な場面で患者たちと心を通い合わせることの根本にあったことが、ダミアン神父の心の優しさとして表れていると感じました。

現在の日本は、法律上ではハンセン病への差別や偏見を禁じていますが、実際にそれが作用しているようには思えません。もし自分の近くに患者がいたとして、全く平気な顔で接することができるか？と心に問いかけると、正直なところ難しいと思ってしまうかもしれません。恐らく多くの人がそうである気がします。だからいつまでも状況が変わらないのではないのでしょうか。

そうした状況を変えていくためには、ダミアン神父のような考えの人が一人でも増えていくことが必要ですね。なかなかすぐに考え方を変えるのは簡単ではないですが、自分自身も変えていきたいです。

この本を送って下さらなければ、恐らくダミアン神父のことを知らずにいたと思うので、ドン・ボスコ社の皆さんに大変感謝しております。

自分が逮捕された年齢と大して変わらない若さで、凄い決断を下されたダミアン神父と自身を比べると情けなくなります。これからはダミアン神父のように、自分の行動に信念を持ち、それを悪い方ではなく良い方向へ貫いていきたいです。



光りんさん「この世界は、色があふれているけど、ボクは、惑わされない」

ダミアン神父の生涯について

丁刑 Sさん

本を何度も読み返して感想をお聞かせ下さい、とありましたので、少し書いてみます。

私が特に心に残った本は、『二つの勲章 ダミアン神父の生涯』です。

ダミアン神父の家系は熱心なカトリック教徒であり、祖父母の代から伝わっている聖人たちの生涯の物語の大きな本を読んでもらって育ったようで、最初の宗教の勉強は母親を通して行われたそうです。

近くの村で村祭りがあり、両親が子供たちを連れて村祭りを見に行っている時、ダミアンが迷子になってしまい、小さいダミアンを皆で懸命に探して歩きましたが、ダミアンの姿はありませんでした。あちこち探して兄弟は疲れ切って、広場の近くに教会が建っていたので、両親と子供たちは聖堂の中へ入って扉を閉めました。

中は薄暗く、初めのうちは何も見えませんでした。すぐに母親が、祭壇の前にひざまずいて祈っている小さな姿に気づきました。ダミアンでした。しばらくすると頭を上げて振り返り、母親がそこにいることを知っていたかのように、にこっと笑いました。安心してきつたその笑顔を、母親は生涯忘れることができなかったと言っています。

知らない村で、皆で一生懸命に探したにもかかわらず見つからなかったのに、教会で小さな息子が祈っている姿を見た時に、どんなに安心したことでしょう。

本来は、ダミアンの兄がハワイ諸島へ行くはずでしたが、チフスが流行して自らも同じ病に倒れてしまい、回復には長い時間が必要だったため、ダミアンが代わりにハワイ諸島へ行きました。

ダミアン神学生は、オアフ島にあるイエズス・マリアの聖心会の神学校でさらに2か月間勉強し、ホノルルのカテドラルで、メグレ司教によって司祭

に叙階され、ダミアン神父となりました。

ハンセン病に感染した患者たちは、皆、モロカイ島へ強制隔離されていました。そういう所へ、神父として行くと思う人はいないでしょう。この世の地獄とも言われているモロカイ島へ、自分から、「宣教師として私に行かせて下さい」と志願する勇氣には驚きました。

モロカイ島は、流す涙も枯れてしまう絶望の島です。ダミアン神父33歳、それはイエスキリストが十字架にかけられたのと同じ年齢であったようです。ハンセン病患者がいっぱいいる場所へ行けば、自分自身もハンセン病に感染するのではないかと恐怖を感じると思うのです。しかし、33歳のダミアン神父は、モロカイ島に渡り、生涯、ハンセン病の人々のために働き始めるのです。

モロカイ島の港に着くと、首に口ザリオを下げた人たちがダミアン神父に近づいてきました。ある者は鼻がなく、ある者は耳が変形し、口が歪み、目の

かわりに二つの穴が開いている者もいたようです。

ダミアン神父は、覚悟はしてきたものの、あまりの惨（むご）たらしさに、恐ろしさに思わず身震いしたようです。

メグレ司教は、そんなダミアン神父を気遣うように見て、帰ろうか聞きました。ダミアン神父はきっぱりと「いいえ」と答えました。そして教会の入り口で、聖堂の大掃除を始め、4時間後、聖堂は見違えるように綺麗になりました。

患者が夜の食事の足しに、と果物を持った力ゴを差し出しました。彼の手には指が3本しかなく、傷口は血と膿が滲んでいました。が、ダミアン神父は、そんなことは気にしないように力ゴを受け取り、「ありがとう」と言いました。

この時、ダミアン神父は、この人々に心を開いてもらうためには、彼らを汚いと思ったり、感染の心配をしたりしている様子を毛の先ほども見せてはならない、と固く決心したようです。

教会で、悪臭のする中、説教をする際の呼びかけで、ダミアン神父は「兄弟の皆さん」と言わずに「私たちハンセン病患者は」と言いました。最初から人々と同じ高さに立とうとしたのです。この姿勢は、終生変わらなかったようです。

改めて、ダミアン神父は健康でありながら、自分の意志で自分の生涯をハンセン病患者のために捧げようとして、モロカイ島へ行ったのだと痛感しました。

ダミアン神父は水源地を探して毎日歩き回り、ついに冷たい水が湧いている泉を発見しました。ここに貯水池を作って、そこから水を引けば、患者たちの生活は清潔になります。ダミアン神父は軽い症状の患者に手伝ってもらいながらパイプを運び、自分で水を引かなければなりませんでした。

数日間の悪戦苦闘の末、ついに成功し、泉のそばに作られた貯水池からパイプの中を走り続けた水が、最後のパイプから出たのです。飲み水だけでなく、洗濯も好きにできる、入浴もできる。これは皆が心から喜ぶのが目に浮

かびます。素人と患者たちで工事をするので、大変さが伝わります。

ダミアン神父を必要としている人がいれば、何時であろうと飛んでいきました。死にそんな人の指の無い手を一晚中さすっていました。

ダミアン神父は物だけでなく、もつと大切な心を人々に与えたのです。

嫌がる素振りを少しも見せずに、ハンセン病患者と同じ皿から物を食べ、彼らが血と膿の滲む手で取り分けてくれたタロイモも喜んで食べて、ダミアン神父が常用しているパイプは、ちよつと目を離すと患者たちが回し飲みをしていることが度々ありました。

そんなダミアン神父を見て、隔離施設の病院を訪れた医師が批判したようです。「神父さん、あなたは感染にあまりにも不注意すぎる」と。

施設に来る医師たちは、感染を恐れるあまり、患者たちには直接触れず、ステッキの先で患者の毛布を持ち上げ、形ばかりの診察をするだけだったようです。

ダミアン神父は医師に注意されても自分のやり方を変えなかったようです。

ダミアン神父は、「楽器を演奏することによって、荒んだ心は慰められる。自分にも何かができるという自信は、彼らにとっては非常に大きな励みになる」と考えました。

メグレ司教がモロカイ島の隔離施設を視察に来たとき、噂には聞いていたものの、楽隊は本当に素晴らしかったそうです。メグレ司教は、ハンセン病患者たちの生き生きした様子に、目を見張る思いでした。2年前、ダミアン神父をここへ連れてきて紹介した時の患者たちの惨めな姿を思い出し、これがあの同じ患者たちだろうか、とダミアン神父が成し遂げた奇跡を目の当たりにして、胸を熱くしました。

患者たちは、メグレ司教に「ダミアン神父を私たちの中に来させて下さって、本当に有難うございます。ダミアン神父が私たちのためにどれほど尽くしてくれているか、お分かりにはなりませんまい。カトリックだろうとプロテ

スタントだろうと仏教徒だろうと、全く分け隔てなく良くしてくれます」と言いました。

メグレ司教は、「あなた方が生き生きと暮らしているのを見ると、ダミアン神父がどんなに良くやっているか分かります」と答えました。

ダミアン神父がモロカイ島へ来て一年経った頃、足が熱くて、水で冷やさなければ眠れないこともあり、足に激痛が走り、皮膚が乾いて黄ばんだ斑点が出ました。

翌朝、ミサの中で彼は、「私は皆さんと同じようにハンセン病患者になりました。私はこの恵みを感謝します。私たちハンセン病患者は、と言ってきましたが、これからはもつと確信を持つて言えます。そして、皆さんとの絆はもつと強くなります。ハンセン病にかかったのは、神が私に下さった大きな勲章です」と言いました。取り乱すことなく立派なものでした。

最後に、写真を見た感想です。

33歳の若きダミアン神父がモロカイ島に渡り、生涯をかけてハンセン病

患者の人々のために働き始めた目は輝いて見えます。ハンセン病患者の人々のためにダミアン神父が建てた施設や教会は綺麗で本当に立派なものです。

ダミアン神父が聖フィロメナ教会の女性たちと写っている写真は、後ろから女性たちを見守っているように私には思えます。何か温かいものが感じられます。ダミアン神父が患者たちに自信と勇気を持たせようと願ってできたブラスバンド、かっこいいです。

ダミアン神父とモロカイ島の人々の写真には、ハンセン病がだいぶ進んでいる人が見られます。ハンセン病が行った状態のダミアン神父、死の3か月前の写真では、顔や手にイボのようなものができて変形していて、とても恐い病気であると知りました。このような状態にあるのにもかかわらず、自分の生涯をハンセン病患者と神様に捧げた人でございます。

これが、私が『二つの勲章 ダミアン神父の生涯』を読んだ感想です。

「塀の中のたより」の三三三版

つぶやき！

苦しいこと、辛いことばかりに目がいきがちになってしまいましたが、その間にも楽しいことはあったし、笑って過ごしたことで、時々思い出す幸せだった時間や時期、瞬間もいっぱいあったように思います。

苦しい時や嫌な出来事を思い出し、下を向いて過ごすなら、しょうもないテレビを見て無理やり笑ったり、バカ話で盛り上がったたりする時間を過ごす方を私は選びたい。

現実を見なさい、と言われるかも知れませんが、それらは既に過去であって、現在でも未来でもないの、下を向いてしまうような過去は必要ないと思ってしまうと思います。

失敗したことについては、反省しているし繰り返し返さない努力はしないといけない、と、今まで思ったことがないくらい強く思っています。

(K刑 Sさん)

☆

毎月、たよりを楽しみにしています。その楽しみの要因の一つが、イラストです。思わず唸るほどのクオリティの作品を連続投稿している方々には、リスペクトしかありません。

これから冬を迎えます。我々受刑者にとつて厳しい季節ですが、皆さんの投稿して下さる和やかなイラストを眺め、心を温めさせて頂きます。

(ハナビさん)

☆

先日頂きました3冊の尊い本は、信仰を持って良かったと思える本ばかりでした。

私の好きな言葉に、「信仰は、神様を信じる力ではなく、神様の信頼を受け取ることです。あなたが神様を信じる前に、神様があなたを見つけて下さり、あなたを愛し続けて下さっているということを知らず」という言葉があるのですが、刑務所という殺伐とした場所にいながらも、神様は私に優しく語りかけて下さっている、愛し続けて下さっている、と感じられる内容の本ばかりでした。皆様、本当に有難うございました。

(O刑 Yさん)

☆

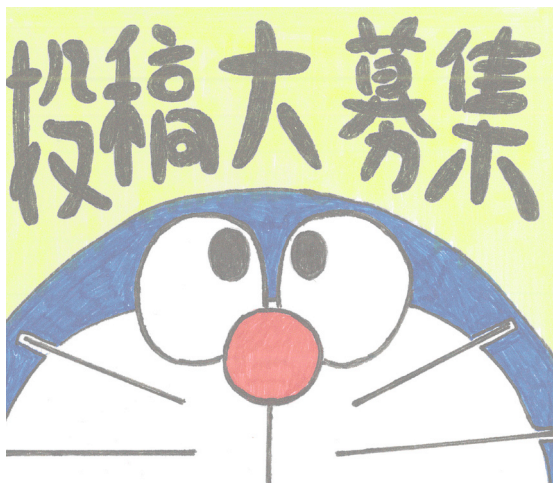
ダミアン神父の時代は何をするにも苦難の連続だったことでしょう。私はそのように感じます。

ハンセン病が進行した状態のダミアン神父、死の3か月前の写真を拝見し

当時の驚きとショックは大きかったです。若きダミアン神父が33歳で島に渡った当時の写真と比べると、人相が変わり果てており、胸がきゅつと締め付けられ、なぜか涙が自然に溢れ出ておりました。人のためにここまで尽くせるものなのか、と感動しました。

ダミアン神父の写真は一生忘れることはありません。ダミアン神父のように、私も人の役に立ちたいと思うようになりました。

(下刑 Sさん)



一兵さん

五十嵐亜利沙 (妻) による

ラブリーDAY

夫と長男、長女がお風呂に入っていて、あまりにもうるさいから夫が「お風呂に入っているときぐらい静かにできないの!？」と怒りました。
すると長女が「あんただって子供のころお風呂楽しかったでしょ!」と言い返しました。

ぐうの音も出ない一言に、洗面所で聞いていた私は爆笑したのですが、まさに私が言いそうなことを代弁していたと思いました。

私みたいなのがもう一人、いや三人?いたら夫は大変ですね!

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

老眼

皆さんこんにちは。まもなく、今年も終わりますね。来年も健康に過ごせますように、切に願っています。

通信教育を受けられた方は、是非思い返して頂き、健康法を続けて下さいね。受講していない方で、受講を希望される方はご連絡下さい(通信教育講座受講希望:中谷こずえ宛でお送り下さい)。

老眼は、眼の老化現象の代表的な症状になります。レンズの役割を担っている水晶体が硬くなることが原因です。

水晶体は、外から入ってきた光を網膜に届けるカメラのレンズのような働きをする透明な組織です。若い頃は柔軟性があるので、遠くを見る時は薄くなり、近くを見る時は厚くなって、ピント調節をしています。加齢とともに水晶体の柔軟性が失われて硬くなってくると、水晶体の動きが鈍くなり、ピント調節しにくくなります。一般的には四十歳を過ぎた頃から自覚します。皆さんはいかがでしょう。



光りんさん
「植物の世話が大好きな妖精⑦
ネコヤナギ」

老眼の症状としては、次のことが挙げられます。

- ・手元が見えづらい
(近方視力の低下)
- ・細かな文字が読みづらい
- ・暗い所で見えづらさを感じる
- ・眼精疲労
- ・(肩こりや頭痛をともなうことも)
- ・コンタクトのとき近方が見えづらい
- ・夕方になると見えづらくなる

老眼は、水晶体が硬くなることが原因のため、市販の眼薬やサプリメントでは治りません。

老眼の治療法として、老眼鏡や遠近両用コンタクトなどの屈折装具による方法と、手術による根本的な治療の二つがあります。

現在、日本国内で行われている主な老眼治療には次のようなものがありますが、一つ注意したいこととして、白内障があります。

白内障も眼の老化現象の代表格ですが、老眼は水晶体の柔軟性が失われることが原因である一方で、白内障は水晶体が白く濁ってくる眼の病気です。

老眼と白内障は、発症する時期が重なるため、どちらの症状か区別がつかないことが多く、老眼よりも白内障が認められる方が多く見受けられます。

白内障の有無によって選択する治療法が変わってくるので、分けて治療法をご紹介します。

・屈折装具

↓老眼鏡、遠近両用眼鏡、遠中近両用眼鏡、遠近両用コンタクトレンズ

・点眼治療

↓老眼改善点眼治療(リーディングドロップ治療)

・手術治療

↓遠近両用レーシック、遠中近両用フェイクック(老眼用プレミアム眼内コンタクトレンズ)、モノビジョンレーシック、カメラインレー

・白内障手術

↓多焦点レンズによる白内障手術

(偶数月掲載) 専門インストラクター ニ口先生による

プリズムアート倶楽部

駅のお花屋さんの ポインセチア



十二月は、駅にあるお花屋さんに、ポインセチアが沢山並びます。

まだ都内へ通勤していた頃の話になりますが、赤いポインセチアが並んでいると、クリスマスの季節が来たんだなく華やかで楽しいなと、仕事へ行く前も帰宅する前も、ポインセチアの色に癒されていました。

皆さんは、どんな思い出がありますか？

それでは、準備が出来たら、描いてみましょう。

最初に、つぶつぶの小さな長い丸を描いて、お花の中心を決めていきます。お花といっても、ポインセチアは、葉っぱがお花のようにまとまっていますので、中心から対角線を意識して、3枚ずつ、先端を細めにした葉っぱを描いてみましょう。

周囲に何枚か葉っぱを増やしなから、ポインセチアを描きます。葉っぱには、細かく葉脈を描きましょう。色を塗る場合は、中心の葉っぱを赤く塗り、周りの葉っぱを緑色にすることで、ポインセチアらしくなります。

■絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、ハンドペイントの良さを生かして、自由に描いて下さい。文通をされている方は、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試し下さいね。

■ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いて頂いて大丈夫です。ボールペンは、PILLOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかも知れません。

■このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため、必ずご相談下さい。

回復プログラム 実践

■受刑者の皆さんにお送りしている「回復プログラム」冊子より抜粋して掲載しています。繰り返し取り組んで頂き、自分自身を知ることにつけて頂けたら幸いです。

■「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフや、社会のボランティアによる正直なコメントを返信させていただきます。

【第8回目】

1. 今の状態は普通ではない状態です。では異常な今の状態はどんな状態ですか。
2. 普通の状態とはどんな状態ですか。
あなたが望む状態とは…出所、就職、結婚、家庭、社会貢献など…。
3. 悔い改めのために必要とされる新しい生き方、考え方、価値観とはどのようなものですか。
4. 悔い改めに必要な力は何だと思いませんか。

光りんさん「ジンベエザメ」



編集後記 by 編集局

今月号もお読み頂き、有難うございます。刑務所も高齢化が進んでいるようで、「細かい字が読みにくくなってきた」という声もお手紙で増えてきたので、裏表紙以外、たよりの基本文字サイズも 16.51 から 18 へサイズアップしてみました。読者の皆さんのためだけでなく、編集もしやすくなりました♪

刑務所アート展情報は今月号お休みです。寄付金コーナーは、月末での集計が難しいため（内訳が不明なご入金時々あり確認が必要）、たよりでの掲載がなくなります。期末の決算書では、これまで通り確定した金額を掲載させていただきます。

それでは、皆様素敵なクリスマス・お年を & 来年のたよりもお楽しみに！

お知らせ

○MLP ペア決め現状：受刑者側の希望者よりも文通ボランティアが少ないため、文通相手がない受刑者を優先しております（現在、約 30 人待ち※毎月の 20 ～ 40 名ほどの新規入会の受刑者の分も含まれています）。文通相手追加希望の受刑者はお待ち下さい。

○冊子 NEXT は寄贈の終了に伴い、毎月のたよりへの同封も終了となります。

○フランススコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランススコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。

なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、何卒お願い致します。

○下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。
・突然たよりが送られなくなった。

- ・刑期（出所日）が変更になった。
- ・入会申込書もしくは会費を送って 2 か月が経過後もマザーハウスから何も届かない。
- ・聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。

○会費やフランススコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 5 円がかかります。
（例）100 円切手 × 5 枚の場合：500 円
－ 手数料 5 円 × 5 枚分 = 受領額 475 円

○絵画を獄中 POST シリーズへ応募する際は、その旨を都度、ご明記願います（明記無い場合には、たよりでのみ掲載となります）。

○たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）



♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR ↑)

価格: 粉200g または 豆200g …… 972円 (税込)

カフェドリップ10g (1回分) …… 108円 (税込)

☆継続して購入・販売してくださっている皆さま (順不同) ☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会 (平和環境部)／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、ツチ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



♪オーガニックの純スリランカ産のセイロンティーです。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR ↑)

価格: 50g (2g入り25袋) …… 756円 (税込)

オンラインでのご注文: <https://mariacoffee.shop/> (QR ↓)



マザーハウスたより 22' 12月号

発行日: 2022年12月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志
〒130-0024 墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長妻ブログ ↑ MLP問合せ

ラウレンシオ（便利屋業）

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

(2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。)

TEL: 03-6659-2110 / FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

獄中 POST シリーズ

♪現在、引き継ぎ作業中のため一時的に活動を休止しております。

再開次第、お知らせさせていただきます。

引き続き宜しくお願い致します。

古本募金（きしゃぼん）

♪書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお願いください)

TEL: 0120-29-7000

お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org

(QR →)



ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



支援

☆正会員 (一口5000円/年) ☆賛助会員 (一口3000円)

☆社会復帰支援 (ご寄付) を随時募集しております。

→振込口座名: 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

※ info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)